第 1 1 回蒲郡市産業振興会議 会議録

開催日時	令和 7 年 5 月 2 9 日 (木) 午前 1 0 時～正午		
開催場所	蒲郡市役所本館 3 階 3 0 3 会議室		
蒲郡市産業振興会議委員	出席者 (敬称略)		
	機関名または企業名	役職	氏名
	蒲郡商工会議所	会頭	小澤素生 (株式会社ニデック 代表取締役社長)
	一般社団法人蒲郡市観光協会	会長	杉山和弘 (株式会社明山荘 代表取締役社長)
	蒲郡鉄工会	会長	近藤昌泰 (株式会社近藤鐵工所 代表取締役会長)
	蒲郡金融協会	代表	河合修治 (蒲郡信用金庫 常務理事)
	小池商事株式会社	代表取締役社長	小池高弘
	株式会社ミスコンシャス	代表取締役社長	小山絵実
	愛知工科大学	工学部機械システム工学科教授	渡部吉規
	愛知大学	地域政策学部教授	戸田敏行
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科機械工学系教授	高山弘太郎
	蒲郡市	産業振興部部長	池田高啓
	【欠席者】		
	機関名または企業名	役職	氏名
蒲郡市農業協同組合	代表理事組合長	鈴木茂正 (蒲郡市農業協同組合 代表理事組合長)	
蒲郡市漁業振興協議会	会長	小林俊雄 (三谷漁業協同組合 代表理事組合長)	
株式会社金トビ志賀	代表取締役	志賀重介	
稲葉製綱株式会社	取締役専務	稲葉千穂子	
事務局等出席者	機関名または企業名	役職	氏名
	蒲郡市	産業振興部観光まちづくり課長	山田浩隆
	蒲郡市	産業振興部産業政策課長	竹村太郎
	蒲郡市	産業振興部農林水産課 係長	久田雄一郎

	蒲郡市	産業振興部観光まちづくり課 課長補佐	鈴木隆夫
	蒲郡市	産業振興部観光まちづくり課 シティセールス推進室 室長	小山道徳
	蒲郡市	産業振興部産業政策課 課長補佐	黒田俊介
	蒲郡市	産業振興部産業政策課 課長補佐	永谷礼子
	蒲郡市	産業振興部産業政策課 産業立地推進室長 室長	坂口敏行
	蒲郡市	産業振興部産業政策課	吉見健児
	蒲郡市	産業振興部産業政策課	磯部大和
	蒲郡商工会議所	中小企業相談所長	松岡祐志
議事保存	第10回蒲郡市産業振興会議録の保存		
議題	<p>(1) K P I の報告について (資料1)</p> <p>(2) 令和7年度の主要・新規事業について</p> <p>ア 産業政策課</p> <p> (ア) 道の駅導入可能性調査の概要について (資料3)</p> <p> 【基本戦略02 挑戦への支援：産業競争力の強化】</p> <p> 【基本戦略02 挑戦への支援：地域経済循環の促進】</p> <p> 【基本戦略03 連携の推進：観光と多様な産業の連携】</p> <p>イ 観光まちづくり課</p> <p> (ア) 西浦園地及び周辺エリアの将来構想策定について (資料2)</p> <p> 【基本戦略02 挑戦への支援：地域経済循環の促進】</p> <p> (イ) 蒲郡市観光まちづくりビジョンの改訂について (資料4)</p> <p> 【基本戦略03 連携の推進：観光と多様な産業の連携】</p> <p>ウ 農林水産課</p> <p> (ア) 農地情報公開型GISの導入について (資料2)</p> <p> 【基本戦略01 柔軟性の強化：経営基盤の強化】</p> <p> 【基本戦略01 柔軟性の強化：産業人材の確保と育成】</p> <p> (イ) 里山林整備事業費補助金について (資料2)</p>		

	<p>【基本戦略02 挑戦への支援：グリーントランスフォーメーション（GX）の推進】</p> <p>(3) 委員所属団体の取組みについて</p> <p>ア 蒲郡市農業協同組合（資料5）</p> <p>イ 蒲郡金融協会（資料6）</p> <p>ウ 蒲郡商工会議所（資料7）</p> <p>エ 稲葉製綱株式会社（資料9）</p>
<p>会議資料 ※省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料1 KPI進捗状況一覧 ・資料2 令和7年度の主要・新規事業 ・資料3 蒲郡市道の駅導入可能性調査委託業務仕様書 ・資料4 蒲郡市観光まちづくりビジョン改訂の流れ ・資料5 「蒲郡市農業協同組合」報告資料 ・資料6 「蒲郡金融協会」報告資料 ・資料7 「蒲郡商工会議所」報告資料 ・資料8 「産業政策課」報告資料 ・資料9 「稲葉製綱株式会社」報告資料 ・蒲郡市産業振興会議 出席者名簿 ・座席表 ・意見提出用紙
<p>会議内容</p>	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会議の注意事項 ○ 配布資料説明 <p>2 第10回蒲郡市産業振興会議録の保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 戸田会長及び高山副会長による署名 <p>3 議事</p> <p>今回は、「KPIの報告について」、「令和7年度の主要・新規事業について」、「委員所属団体の取組みについて」の3点の議題が挙げられています。それでは、「KPIの報告について」事務局から説明をお願いします。（会長）</p> <p>(1) KPIの報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業政策課から令和6年度末時点のKPI進捗状況を報告 <p>(2) 令和7年度の主要・新規事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業政策課から「道の駅導入可能性調査の実施」について説明。 ・ 観光まちづくり課から「西浦園地及び周辺エリアの将来構想策定」について説明。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産課から「農地情報公開型GISの導入」、「里山林整備事業費補助金」について説明。 ・ ありがとうございます。KPI進捗状況の報告と、令和7年度の主要・新規事業について、ご質問あるいはご意見、コメントある方挙手をお願いいたします。(会長) ・ KPIの進捗状況について、基本戦略01、02にある「企業立地と企業再投資促進補助金認定件数」の実績は0件となっており、工場用地を取得するには長い時間がかかるのでしっかり予算をつけて、スピード感をもってやっていただきたい。また、小規模の工場でもどこかに移転したいというニーズはあるので、その視点はぜひ持っていただきたい。(委員) <ul style="list-style-type: none"> → 0件というのはなかなか厳しい数字であるということは認識している。蒲郡で産業誘致をする中でも、土地がなければ誘致もなかなか行きつかないので、早く工業用地を立地、造成できたらと思っている。産業立地推進室としては、企業をまわってヒアリングしたり、蒲郡に立地したいという企業に対しては、かなり詳細な資料をもとに情報提供して企業に工場の誘致をしていただけるようにアプローチはしている。(事務局) → 蒲郡市には大企業を呼べるような広大な土地がない。蒲郡市内の小規模な製造業における工場の誘致先としての工場用地をちゃんと向き合っていくべき。蒲郡市の製造業、工場出荷額を支えている企業がそのまま存続していくことがまずは大切な取り組みだと思う。(委員) ・ KPIというのは最終的なKGIを達成するための指標みたいなものになると思うが、本当にこのKPIが◎ですべて達成されたらKGIに影響するものとなっているのか。(委員) <ul style="list-style-type: none"> → KPIはKGIを達成するための1つの要素であるので、よりKGIを達成するために適正なKPIがあるのであれば、この会議の場でいろいろ議論した中で変えていけたらと思う。(事務局) → 実際の事業活動に繋がるKPIを設定することが重要であるため、達成率が高いものや達成率が低いものについては柔軟に見直していく必要がある。(会長) ・ KPIの進捗状況について、目標値に対して実績が大幅に多いものがあるが、予算配分はどのようなになっているのか。(委員) <ul style="list-style-type: none"> → 必ずしもKPIの目標値に対して、予算がついているだけでなく、予算なくセミナー、イベントを実施することがあるため、実施回数が増えるものもある。(事務局)
--	---

- ・ K G I の設定として、蒲郡市があるべき姿になるため、すべて達成することを目標とするということでもいいのか。また、×に関しては、絶対にクリアしなくてはならないものとして掲げているものなので、◎の予算補助を切っても徹底的に×を支援しなくてはいけないという結論になるのか。(委員)

→ 産業振興の目的である「がまごおりの産業がこれからも成長し続けることで、わたしたちのまちと生活がもっと豊かになること」を達成するための指標をK G I としている。このK G I を達成できるよりよいK P I があれば変えることになると思う。また、×があるものについても同様の考えで、K G I を達成するために、他に適切なK P I があれば変更するし、×となっているK P I がK G I 達成に資するものであるならば、人や予算をつけて実施していく必要があると思う。(事務局)

→ K G I が達成できるのであれば、K P I は変えてもいいのか。例えば、スマート農業みたいなものが全く導入されなかったとしても、その他の分野においてK G I が達成できているのであればそれは良いというような判断になるのか。(委員)

→ あくまでK G I 及びK P I については産業振興の目的である「がまごおりの産業がこれからも成長し続けることで、わたしたちのまちと生活がもっと豊かになること」を目標にしており、K G I やK P I を簡単に変えることは、何のためにこの指標を掲げたのかというのが分からなくなるので、変えるのは慎重にやらなければならないと思う。(事務局)

→ K G I を達成するためにK P I を設定したという構造になっているので、K P I を変えていくことはありだと思う。(委員)
- ・ 令和7年度の主要・新規事業について、道の駅の導入について過去に検討したことがあるのか、あったらなぜダメになってしまったのか。また、今回予算をつけたのは23号バイパスが開通したことがきっかけになったのか教えていただきたい。(委員)

→ 産業振興部だけでなく企画部、建設部でも過去に検討した結果がある。当時の検討結果としては23号バイパスの本線上だと立地的に厳しいという結論が出ている。ただ、それ以外の場所の可能性を検討していくために、今回委託事業費がついている。また、今回予算をつけたきっかけとしては、23号バイパスが全線開通して、人、ものの移動が大幅に変わるであろうということと、2車線4車線化を進めていくという長期的な検討も進んでいるので、そこを目指して道の駅の可能性というのを考えていきたい。(事務局)
- ・ 令和7年度の主要・新規事業について、農地情報公開型G I S がK P I 進捗状況一覧にあるスマート農業にあたるのかと、農業のD X 化という風にとらえている

のか。これだけでは農業のDX化とは繋がらないので、次年度以降の農業のDX化のアイデアを持っているのか。(委員)

→ 農地情報公開型GISは、直接農家さんがやられるようなスマート農業に関するものではない。農地を拡大して規模を拡大したいという方々が、農地の情報を手に入れるのが難しいという現状があり、農地情報を公開型GISによって見える化することで、農地の代謝を促進していくものとなる。また、スマート農業の今後の展開についてまだ具体的なアイデアはなく、今後考えていかないといけない課題であると認識している。なお、農地情報公開型GISの活用、運用について、公開されただけで使われなければ意味がないので、周知はしっかりやっていきたい。(事務局)

- ・ 観光分野については、外から人を呼び込むことが重要であるため、市民目線ではなく、外からの視点が重要となる。施策によってどの視点で考える必要があるのか考えながら事業を実施していく必要があると思う。(委員)

(3) 委員所属団体の取組みについて

- ・ 農林水産課から「露地みかんのドローン薬剤防除」について報告
 - ・ 蒲郡金融協会から「SDGs実施指針」について報告
 - ・ 蒲郡商工会議所から「人材採用必勝セミナー」「創業はじめの一步セミナー」「がまごおり創業塾2025」について紹介
 - ・ 事務局から「繊維ロープ業界の最近の動き」について報告
 - ・ ありがとうございます。それでは各委員から全体的にご意見をいただきたいと思います。(会長)
 - ・ 主要・新規事業の主要新規事業が非常に見やすくてためになるが、一般の市民の方が目を通す機会がないのではないかと思います。せっかく事業をいろいろと取り組んでいるので、それを市民の方に届けるとより蒲郡市が実施している政策の理解が深まると思う。(委員)
 - ・ 観光分野に関しては市民や観光客がイメージできるような未来像が示せると良い。その未来像があると、地域で連携して魅力を発信していくことができると思う。(委員)
- 観光まちづくりビジョンなど、並行して動いている計画をまとめてコントロールできるとわかりやすくなると思う。(会長)

- ・ 蒲郡では、親から子へと引き継がれた企業が残っている。そういった企業が次世代に向けて頑張れるよう、市には事業に取り組んでほしい。(委員)
- ・ 従来から事業承継に関わる相談会は開催しているが、後継者問題で廃業せざるを得ない事業先も毎年増えている。この対策として、事業承継ネットワークかけはしを市に設立していただいた。この組織が活性化されて発展していただけると大変ありがたいと思う。(委員)
 - 5月23日に蒲郡事業承継ネットワークかけはしを設立。蒲郡市と参画支援機関10社の皆さんと一緒にこの事業承継を蒲郡市内の企業さんの相談や支援をするということで設立した。(事務局)
- ・ 観光分野や農業分野など、どの分野の満遍なくやるというのが蒲郡市の産業政策の特徴だと以前の会議でもあったと思うが、やはりリスク回避感がある。蒲郡市はここに重点を置くといったものがあるとみんなが同じ方向を向きやすい。(委員)
- ・ まちづくりとは時間がかかるものであり、長い月日をかけて市民などに定着させていくものである。竹島が天然記念物となっている由来など、知らない人が多いので、そういったものを市民や観光客に伝えられるような街のしつらえを整備していく必要があると思う。(委員)
- ・ ドローンによるカンキツ防除の開始について、対象がハウスミカン栽培者と大規模農家となっているが、ハウスミカンの場合ドローンでどのように実施したのか、また、小規模農家など、蒲郡市全体にどう広めていくのかというビジョンを伺いたい。また、繊維ロープについて、日本の繊維ロープの生産の約40%を占めていてすごいシェアが大きいですが、さらに発展させていくビジョンはあるのか。(委員)
 - ハウスミカンでドローンは使えないので、実際の対象は露地みかん。今後どのように広げていくかは考えていきたい。また、ロープについては、通常の漁船や漁網をつなぐといった使い方以外にも、観光利用や様々な遊具に使ったりして販路を広げていきたいという思いがあるという認識。(事務局)
 - ドローンを使うと結構お金がかかると聞いたが、この予算はどのように工面されているのか。(委員)
 - 市の予算は全く入ってなく、蒲郡市農業協同組合独自の事業でやられていて、利用者の方から利用料を徴収する形で事業を実施している。(事務局)
- ・ 教育や研究をやっている大学側としても、今後KPIやKGIの達成に連携できるのかということに関与していきたいと思っている。例えば、サーキュラーエコノミーの認知度アップについて、大学と連携して教育コンテンツを作ることで、認

知度アップの協力ができるかもしれない。(委員)

- 行政は年度で予算が縛られているところがあるので、これからも国の補助金等を獲得するなり、補助予算で対応していきたいと思う。それぞれの施策について効果検証を進めながら、攻めの姿勢で取り組んでいきたいと考えている。また、この会議体が産学官金を繋げていくと思っているので、ご理解ご協力をよろしくお願いします。(委員)
- 産業振興会議について、柔軟的に変えていくところはもっとあっていいと思うし、産業振興会議があることで、蒲郡市の産業全体がどのようになっていくのかなどのフィードバックはとても大事だと思う。また、土地利用の問題など、行政の組織として横断的に実施していく必要のある事案も多く、産業振興会議を活用し、横断的に実施していけると良い。(会長)